

小学校体育における「社会性」育成の変遷と重要性に関する一考察  
A consideration about the Change and the Importance of growing “social skill” regarding P.E.  
in elementary school

1K09B197-1

蓑田 直哉

指導教員 主査 友添秀則 先生

副査 吉永武史 先生

## 【序章】

＜本研究の動機＞

本研究の動機は、私が将来小学校の教員を目指すうえで、まず、現在の小学校教育について知識をつけ、過去の教育のあり方や、そこから現在に至るまでの経緯を理解することで、現在の教育がなぜ今の形態になってきたのかを知ることが必要であると考えたからである。また、その中で小学校教育が児童の社会性育成のためにどのような重要性を持ち、どのような役割を果たしているかの理解することで現場での教育実践に活かし、自分の教員としての能力を高めていきたいと考えている。

戦後の学校教育は「民主的な人間を育成すること」が主な目標として掲げられた。それ以後、子どもたちの「社会性」を育成し、社会人として必要とされる能力を育成することが今日まで一貫して目標とされてきた。体育においても1947(昭和22)年の学校体育指導要綱以来、一貫して「社会性」の育成を目標として位置づけてきた。時代によって強弱はあるものの、一貫して「社会性」が位置づけられているという事実は、体育の重要な要素として認識されているということである。

そこで、体育の重要な柱である「社会性」がどのように育まれ、そのために教師はどういった準備を行うべきなのかを明らかにしたいと考えた。

＜本研究の目的＞

本研究は、体育における「社会性」の育成に着目し、学習指導要領における「社会性」の位置づけの検討を踏まえ、今後の「社会性」育成のあり方について提案することを目的とする。

＜本研究の方法＞

本研究は関連文献講読による文献研究とする。

## 【第1章】学習指導要領における体育の変遷

第1章では、終戦直後から順に「新体育」期、「技能主義・体力主義体育」期、「楽しい体育」期と期分けを行い、学習指導要領における体育の目標の変遷を明確にしていく。

「新体育」期においては、1947(昭和22)年に、文部省(現在の「文部科学省」)より、戦後の体育のあり方を示した「学校体育指導要綱」が発行され、「身体の教育」を目指した戦前の体育からの転換が明確に示され、「技能主義・体力主義体育」期においては、「新体育」期の経験主義的な教育が否定され基礎的な学力の不足・低下が問題視されるようになり、科学の体系を重視する系統主義教育への移

行が行われていった。さらに、「楽しい体育」期では、1970年代以降の産業や経済の目覚ましい発展が国民の生活水準の著しい成長へとつながった。そして、産業社会から脱産業社会への転換は人々の生活に大きなゆとりをもたらし、国民全体がレジャーや遊びに関心を寄せることとなる。その結果、健康的な生活や自身の生きがいを重視する考え方へと移行していった。

## 【第2章】各時代の学習指導要領における「社会性」の育成

第2章では、各時代の学習指導要領において「社会性」の育成がどのように扱われてきたかを明確にした。

「新体育」期では軍国主義から脱却し民主主義の立場から体育が検討され、「社会性」の育成が重視された。しかし、子どもを中心とした体育が結果として放任という状況が生じた。その状況を脱却するために、体育が態度や習慣の育成を重視した「しつけ教科」へと転換し「技能主義・体力主義体育」期へと移行していく。しかし、「技能主義・体力主義体育」期に行われた「知識の詰め込み教育」や「切り捨て教育」が体育嫌いや運動嫌いを生み出す要因になった。そして、1977年改訂学習指導要領において「ゆとり教育」への転換がなされ、運動の楽しさや喜びなどの態度に主眼を置いた「楽しい体育」期へと移行していった。

## 【第3章】これからの体育授業における「社会性」育成のための提案

第3章では、まず「社会性」とは一般的に何か、ということを確認し、学校体育においてなぜ「社会性」が必要とされるのか、ということを確認した。

そして、体育授業における「社会性」育成には、①授業において子どもに明確な目標やめあてを提示する必要性、②他者と関わり合うことを学習内容として授業に取り入れる必要性、③運動・スポーツにおける文化的価値の学習の必要性、の3点が重要であることを提案した。

## 【結章】

本論をまとめ、今後の課題と展望を検討した。第3章での提案に対して、①他者との関わりを保障する教材の検討の必要性、②運動・スポーツの文化的価値の学習に関して、小学校では座学で学習の方が効果的か、運動の中で学習の方が効果的か、という点に関する検証の必要性、の2点を課題として指摘した。また、「社会性」育成を目的とした授業の構想を実践し、新しい指導方法を模索することが今後の展望である。